

2023(令和5)年度 名古屋大学基金 会計報告

2023年度の名古屋大学基金の寄附受入金額は1,310,234,658円となりました。
皆様よりあたたかいご支援を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

■2023年度の寄附受入状況

◇寄附金合計額【現金寄附】：1,091,491,658円

◆寄附金合計額【物納、有価証券等を含む】：1,310,234,658円

①法人と個人の内訳

法人からの寄附、個人からの寄附についての内訳は以下の通りです。

分類	法人			個人								合計
	企業	その他	小計	職員	退職職員	在学生	卒業生	在学生の保護者	卒業生の家族	一般	小計	
寄附件数(件)	88	6	94	98	78	20	901	254	158	293	1,802	1,896
寄附金額(千円)	307,234	775	308,009	2,900	17,336	492	864,713	11,020	12,762	92,998	1,002,225	1,310,234

②基金本体と特定基金

基金本体と特定基金の寄附状況については、以下の通りです。

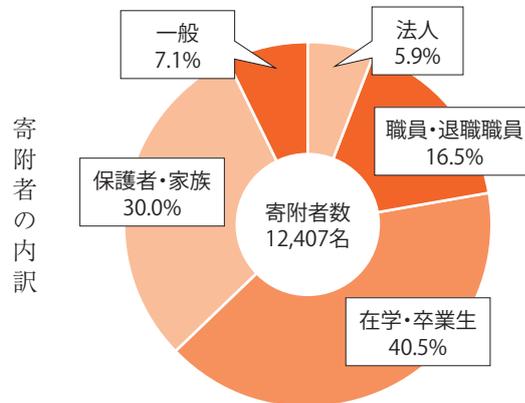
分類	寄附件数(件)	寄附金額(千円)
基金本体	817	1,024,075
特定基金	1,079	286,159
合計	1,896	1,310,234

■2005年度～2023年度の寄附累計受入状況

◇寄附総額【現金寄附】：9,716,355,060円

◆寄附総額【物納、有価証券等を含む】：
22,237,296,960円

◆寄附者数【物納、有価証券等を含む】：12,407名



■2023年度 名古屋大学基金事業収支状況

《収入》

(単位：千円)

区分	金額
前年度繰越額	384,788
当期運用益	197,830
(資金運用益)	118,530
(有価証券配当金)	79,300
合計	582,618

《支出》

(単位：名、千円)

区分	支援数	金額
学生支援(奨学金、留学支援等)	288	163,590
研究支援(若手研究者支援等)	5	18,402
その他	4	5,089
次年度繰越額	0	395,536
合計	297	582,618

※上記のほか、金融商品評価益(含み益)322,521千円あり

■2023年度 特定基金事業総括

特定基金事業の寄附受入件数、寄附受入額、執行額については以下の通りです。

事業名	寄附件数 (件)	受入額 (千円) ※下段は累計額	執行額 (千円) ※下段は累計額	執行実績及び今後の執行計画
工学部・工学研究科支援事業	147	5,453 (96,663)	5,760 (35,020)	【実績】 博士後期課程入学者のうちの希望者全員(留学生を含む該当者68名)に70千円を支給 若手研究者支援:1,000千円(2名分)
青色LED・未来材料研究支援事業	74	23,524 (138,086)	59,100 (89,073)	【実績】 研究設備、消耗品:42,984千円、人件費:7,333千円、知的財産管理費:1,641千円、学生海外派遣助成:1,400千円、オンライン英会話補助:534千円、学生奨学支援:5,207千円
アジア法律家育成支援事業	15	705 (22,056)	1,114 (6,698)	【実績】 「名古屋大学ユス・コムーネ賞」を設立し、受賞者の選考、及び受賞式・論文発表会を開催 留学生支援のための論文執筆補助(論文校閲)事業を実施
女性リーダー育成支援事業	25	1,330 (5,987)	0 (0)	【実績】 女性研究者、女子学生・院生の育成・支援、理系女子学生コミュニティ「あかりんご隊」活動支援費、若手研究者研究力強化事業(プレゼンテーション強化セミナー、英文校閲費助成事業)の実施、女性リーダーへの研究費支援
経済知識人育成支援事業	53	2,825 (74,257)	464 (32,177)	【実績】 法経共用館1階書庫漏水対策工事費用:121千円、学修支援(学生旅費):108千円
名高商・名大経済学部・経済学研究科100周年記念支援事業(募集期間終了)				「寄附記念品(硝子オブジェ)」「リーフレット」に235千円を支出
医学系未来人材育成支援事業	60	59,580 (207,710)	5,000 (25,824)	【実績】 学修支援事業:成績等が優秀であり、経済的理由により就学が困難な学生への奨学金:各1,000千円(5名)
名古屋大学「大学発ベンチャー応援事業」	16	22,883 (127,669)	9,537 (38,191)	【実績】 モノづくりベンチャー活動支援金:4,891千円、ビジネスプランコンテスト:2,800千円、アイデアピッチコンテスト:400千円/その他印刷費、研修費用:1,446千円 【計画】 アイデアピッチコンテスト、ビジネスプランコンテストの実施。学生の教育、大学発ベンチャー支援に関するプログラム、モノづくりベンチャー活動支援金事業の実施を予定。
医学部附属病院支援事業	45	45,250 (308,259)	0 (11,640)	【計画】 患者サービスの向上及び診療環境の充実のため、本基金を活用予定。
名古屋大学附属図書館支援事業	88	26,782 (52,427)	3,476 (14,678)	【実績】 高木家文書の修理(31点):2,378千円、秋季企画展の実施:293千円、学生用図書整備91点(冊子体67点、電子書籍24点):805千円
ジェンダー平等支援事業	1	10 (51,057)	109 (19,856)	【実績】 2019年10月に策定した女性教員増員策(19年増員策)のために109千円を執行 【計画】 女性教員増員の目標値を達成した部局へのインセンティブの原資として、2024年度に基金活用を予定。
農学部・生命農学研究科教育研究支援事業	59	3,663 (144,320)	4,972 (33,874)	【実績】 学生等への奨学金及び、外国の大学等との教育研究交流、留学生への支援 【計画】 博士後期課程在籍学生への奨学金の給付:(1,800千円/1学生 ※1学年につき1名に限る)。天野エンザイム酵素一般研究助成(1,200千円/1件)、奨励研究助成(600千円/1×2件)
次世代保健医療リーダー育成支援事業	9	217 (2,833)	0 (0)	【計画】 学生教育環境整備事業及び若手研究者支援事業に執行予定。
トランスフォーマティブ生命分子研究所支援事業	12	162 (2,030)	0 (0)	【計画】 若手研究者の研究支援に執行予定。
教育学部附属中・高等学校75周年記念国際化推進支援事業	43	1,724 (10,238)	76 (76)	【実績】 国際交流事業:76千円 【計画】 附属学校高校生の海外派遣や、留学生の日本国内事業費等に執行予定。
創薬科学研究科支援事業	21	2,389 (7,116)	0 (173)	【計画】 講演会運営に係る活動支援資金:200千円、渡航活動支援金:200千円、ホームカミングデイ20周年に併せた創薬科学研究科同窓会行事:200千円
理学部学生支援事業	28	664 (9,716)	1,181 (2,536)	【実績】 理学部長顕彰 300千円(6名分)、理学部奨励賞 160千円(32名分)、オンライン用個別ブース1台及び諸経費:721千円 【計画】 理学部長顕彰:300千円(6名分)、理学部奨励賞:145千円(29名分)
PhD登龍門支援事業	10	10,076 (82,650)	8,470 (45,027)	【実績】 学生支援:1,634千円、海外研修等支援:3,717千円、研究活動等支援:3,119千円

事業名	寄附件数 (件)	受入額 (千円) ※下段は累計額	執行額 (千円) ※下段は累計額	執行実績及び今後の執行計画
教育学部・教育発達科学 支援事業	12	10,515 (19,116)	2,430 (3,390)	2024年3月に支援事業名変更
教育学部・教育発達科学研究科 創設70周年記念学生支援事業 (募集期間終了)				【実績】教育学部KANG奨学金：各480千円(3名)、学生の学習用施設設備：MAXHUB1台購入(990千円)
博物館支援事業	11	457 (1,854)	0 (0)	【計画】名大創基150周年記念として博物館スポット展示を計画している。本展示で名古屋大学の歴史と東海国立大学機構の紹介をすることで、さらに市民からの支援を得る機会を作り、展示・事業の拡大を目指す。
巨大災害から次世代を守る 減災館支援事業	51	945 (9,047)	112 (1,204)	【実績】地震災害発生時の揺れを体感できる振動台装置の整備費に基金の一部を使用した。
数理学学生支援事業	44	567 (4,989)	0 (0)	【計画】同窓会等の活動を通じて寄附の働きかけを行うとともに、学外の方にも本事業の趣旨に賛同いただけるよう広報活動にさらに注力する。
創立75周年記念文学部 研究基盤整備支援事業	18	336 (13,453)	9,248 (9,248)	【実績】図書室及び図書収蔵スペース整備・拡充：9,248千円 【計画】図書室及び図書の収蔵スペースの整備・拡充、大学院生・若手研究者の顕彰等を計画。
創基150周年医学部基盤整備 支援事業(募集期間終了)		0 (213,523)	59,767 (151,697)	【実績】キャンパス及び動物飼養設備整備：59,767千円
総合科学による古代エジプト 調査研究支援事業	15	3,687 (5,282)	782 (1,050)	【実績】2023年度から地方のピラミッドの調査を開始し、これにともなうドローン撮影による3D計測調査費用を本事業費から支出した。
名古屋大学漕艇部艇庫・ 合宿所等整備支援事業	10	860 (33,639)	1,353 (6,270)	【実績】艇庫改修部分負担費1,353千円 【計画】艇の購入(令和6年度)：2,000千円、艇の購入(令和7年度)：3,000千円
博士課程人材育成支援事業	9	1,266 (3,502)	0 (0)	【計画】博士課程教育推進機構及び関係教育プログラムで連携を図り、幅広い支援を受けるための方策や、基金の活用方法を協議していく。
次世代環境人材育成支援事業	10	310 (14,715)	3,658 (7,966)	【実績】次世代環境人材育成奨学金：1,400千円、フィールド教育支援(社会環境学に関する地域調査実習)：361千円、フィールド教育(超マフィック岩体の炭酸塩化(炭素固定)に関するフィールド教育)：500千円、環境学研究科学生研究活動支援事業支援金：300千円、環境学研究科新講義科目『環境問題解決の最前線』開講(人件費)141千円、新分野チャレンジ(地域共生型の洋上風力発電事業の実施に向けた学際的研究の形成)：456千円、新分野チャレンジ(ダイヤモンドアンビルセルを用いた高圧高温実験環境の整備)：500千円
食と健康に関する 学際的研究支援事業	5	15,132 (45,162)	8,019 (22,763)	【実績】医学系研究食と健康の未来創造センターが実施した「食と健康の未来創造研究公募事業」のR4年採択課題執行額：6,749千円、R5年採択課題執行額：492千円、既存採択案件継続研究支援金：777千円を執行。
スタートアップエコシステム 推進事業	2	3,807 (3,807)	0 (0)	【計画】オープンイノベーションの促進及びスタートアップエコシステムの基盤形成に本基金を活用予定。
名古屋大学ヨット部 運営支援事業	0	0 (0)	0 (0)	【実績】2024年2月新設のため、現在寄附実績なし。
若手研究者支援を推進する 研究等支援事業	31	3,938 (6,864)	0 (0)	【計画】若手研究者支援を推進するため、公募により選定されて参加する研究プロジェクトにおいて、自立した研究者として行う研究活動及び研究活動の成果発表等への支援に活用する予定であり、引き続き、具体支援策について整備のうえ支援金の支出を予定している。
企業によるエンカレッジメント 奨学金事業	6	7,000 (16,500)	4,000 (10,500)	【実績】寄附金受入6,000千円(2024年度奨学金)、支出4,000千円(2022年度寄附金)(500千円×8名分)
経済的困窮学生の 修学支援事業	149	30,102 (92,819)	8,500 (37,111)	【実績】NU奨学金：1,200千円、理学部奨学金：1,800千円、法学研究科ベトナム留学生奨学金：900千円、法学研究科アジア留学生奨学金：4,600千円
計	1,079	286,159	197,131	

支援を受けた学生の声 ～2023年度名古屋大学基金感謝の集いより～

1. 海外派遣日本人学生奨学金受給学生

私は1年生の夏にタイの短期海外研修に参加させていただきました。高校生の時には、新型コロナウイルスの影響で留学の夢が叶わなかったため、大学で留学に挑戦するという強い気持ちがありました。その一方で、初めての留学ということで、渡航前は不安でいっぱいでしたが、留学の説明会で名大基金の存在を知り、金銭面での不安も軽減し、留学の準備に専念することができました。

私が参加したプログラムでは、研修中に1日一社ずつ訪問し、名だたる企業の社員の方々に向けて、新しいビジネスモデルを考案し、発表をするという機会がありました。タイのチュラロンコン大学の学生さんとグループになり、英語でディスカッションとプレゼンテーションを行い、利益や目標、明確な顧客層を決定し、データを交えて説得力のある発表を意識して取り組みました。私のチームは、一社目訪問の際、時間管理が上手くいかず、十分な発表ができませんでした。それが大変悔しく、グループ全員で振り返りをし、改善点を話し合った結果、最後の企業訪問のプレゼンテーションでは、完成度を高めて本番に挑むことができました。どのチームも限られた時間内で作り上げたとは思えないクオリティのビジネスモデルの提案をしており、大変刺激を受けました。チュラロンコン大学の学生さんは、非常に高い意欲を持って、熱心に取り組んでいました。私のペアになってくれた方は、高い学力だけでなく、人間性がとても素敵でした。相手に敬意を持ち、歩み寄る姿勢をみて、私もこんな風になりたいと思いました。

海外研修中は、朝早くから夜遅くまで企業へのプレゼンテーションの準備に打ち込んだ後に、皆で食べに行くご飯が何よりも楽しみでした。バンコクは、外食文化が根付いており、どこへ行くにも思っていたより食費や交通費がかかりましたが、名大基金のおかげで留学先での生活費には困らず、皆で食事をしながら、将来の夢を語り合うことができました。

今後は、海外の大学院でさらに学び、将来は海外で働きたいと考えています。研修で出会ったチュラロンコン大学の学生さんとは、将来一緒に仕事をしようと約束をしています。その目標に向けて今後もさらに努力していきます。今回の経験は、海外で働きたいというビジョンを再確認する良い機会となりました。留学という機会をいただき本当にありがとうございました。

(経済学部1年 市岡果恋さん)



私はシンガポール国立大学にて1年間の交換留学を行い、この際に、名古屋大学基金から渡航費のご支援をいただきました。留学に際し、大きなハードルとなっていたのが新型コロナウイルスの感染拡大でした。元々、2021年夏からの留学を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で、留学を1年延期せざるを得ませんでした。1年後に渡航できる保証がない中、就職活動を行いつつ、改めて自身の留学の意義について考え直す機会がありました。志望していた企業から内々定を頂き、留学を断念して社会人になるという選択肢も考えましたが、海外で学ぶ機会を手放したくないという思いから、今後の人生のプランを変えてでも、留学することを決めました。そして留学の許可が降り、晴れて1年間の留学をすることができました。ただ、渡航ができるようになったとはいえ、新型コロナウイルスの影響がまだまだ色濃く残っている社会状況下での初めての一人暮らしと海外生活に様々なストレスや不安を抱えていました。しかし、渡航費を援助いただき、安全に入学、帰国できるフライトを選択することができ、渡航に関する不安は事前に解消することができました。思いもよらぬハプニングの多い留学において、事前に不安要素を取り除き、ストレスを解消することができたことは本当に重要だったと思っています。これはひとえに皆様のご支援のおかげです。

留学中は、現地の大学の講義の履修に加え、専門分野のコンペティションにも参加しました。現地の大学生の勉強に対する情熱と、専門分野を複数持つ学生の多さに衝撃を受け、自身の専門分野の勉強に対する姿勢を省みると同時に、専門外の講義の履修にも挑戦する契機となりました。その結果、現地の学生と取り組んだデータ分析のコンペティションで、入賞することができました。勉強以外にも、様々な国の友人と寮生活・授業・クラブ活動を通じて理解を深め、刺激を受け、自身のキャリアを、より国際的な視野で再考することもできました。

コロナの厳しい状況においても、私たちの目標を叶えたいという思いを、ご支援を通して繋いでくださり本当にありがとうございました。私だけでなく、皆様のご支援に背中を押されて叶った夢がたくさんあると思います。ご寄附をいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

(情報学部4年 加藤誠也さん)



2. G30 学部留学生奨学金受給学生

私はG30国際プログラムの工学部3年生で、フィリピン出身です。フィリピンに住んでいた当時、日本の文化や技術などの影響力を日々感じていました。そのひとつに、日本政府が開発援助してくださった治水などの災害対策のインフラがあります。私はフィリピンの小さな島、バナイ島のイロイロ市という海拔7メートルの町に住んでいましたが、開発援助のプロジェクトが実現する前は、季節風や台風で大雨が降ると、必ず膝の高さまで家や道路が浸水し、私も家が浸水し、学校を3か月休んだ悲しい思い出があります。しかし、治水システム完成後は、毎年3～5回あった洪水が数年に1回ほどになり、多くの市民が安心して暮らせるようになりました。私は日本の技術力と、技術がもたらす経済的成果に多くの刺激を受け、日本でその技術力を学びたいと思いました。

しかし、高校3年生でコロナ禍になり、日本への留学は無理だろうと、半ば夢を諦めていた時、名古屋大学にはコロナ禍でも留学生を受け入れ、日本語ができない私でも英語で卒業単位が取得できるG30国際プログラムがあることを知り、名古屋大学を志望しました。合格したものの、私の経済状態を考えると、奨学金がなければ留学するのは無理だと、再び諦めかけていた時、G30奨学金の受給者に選ばれたとメールが届きました。それを見た瞬間、私は飛び上がって喜びました。奨学金により日本で勉強する夢が実現し、名古屋大学の素晴らしい先生方から学ぶ機会に恵まれました。また、天文学部に入って、部活を楽しむ時間もできました。

私は現在、自動車工学の勉強をしています。環境の持続可能性と回復に関するテクノロジーを開発することが目標です。将来は、電子技術者としてゼロカーボン社会に貢献し、地震や津波や洪水などの自然災害に耐えられる自動車を作りたいと考えています。災害が発生した時に壊れて廃車になることなく、「避難シェルター」として機能します。それには、浮力を持たせるために軽量で強いカーボンファイバーの材料を使用し、ジャイロスコープを搭載して洪水時の安定性を確保する必要があり、水に強い電子機器でなければなりません。開発には多くの課題がありますが、この技術は日本だけでなく、災害が多いフィリピンにとっても有益です。両国の自動車開発の共同プロジェクトを主導していくような人物になりたいと思っています。

名古屋大学での経験は、奨学金のおかげで実現しました。奨学金によって救われたのは私だけではありません。奨学金を受けている学生たちは、私と同じように感謝をしています。私たちに多くの可能性を与え、夢を応援していただいていることに改めて心より感謝申し上げます。

(工学部3年 ボレス レイモンド テノリオさん)



名古屋大学 Development Office (DO 室)

〒464-8601 名古屋市中種区不老町
TEL.052-789-4993 FAX.052-747-6383 E-mail : do@kikin.nagoya-u.ac.jp
名古屋大学基金ホームページ <https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

